

東京都若者総合相談センター 若ナビ

の相談から見えてきた 若者支援の現状と課題

東京都若者総合相談センター
センター長 奈和良 由子
【受託者】社会福祉法人 やまて福祉会

本日の発表内容

1 東京都若者総合相談センターの活動

2 相談者の特徴

3 相談事例

ケース1：複合的な課題を抱えた若者

ケース2：病院と連携支援が必要な若者

ケース3：保護観察終了後の若者

東京都若者総合相談センター の活動

若ナビ 



とは

【目的】

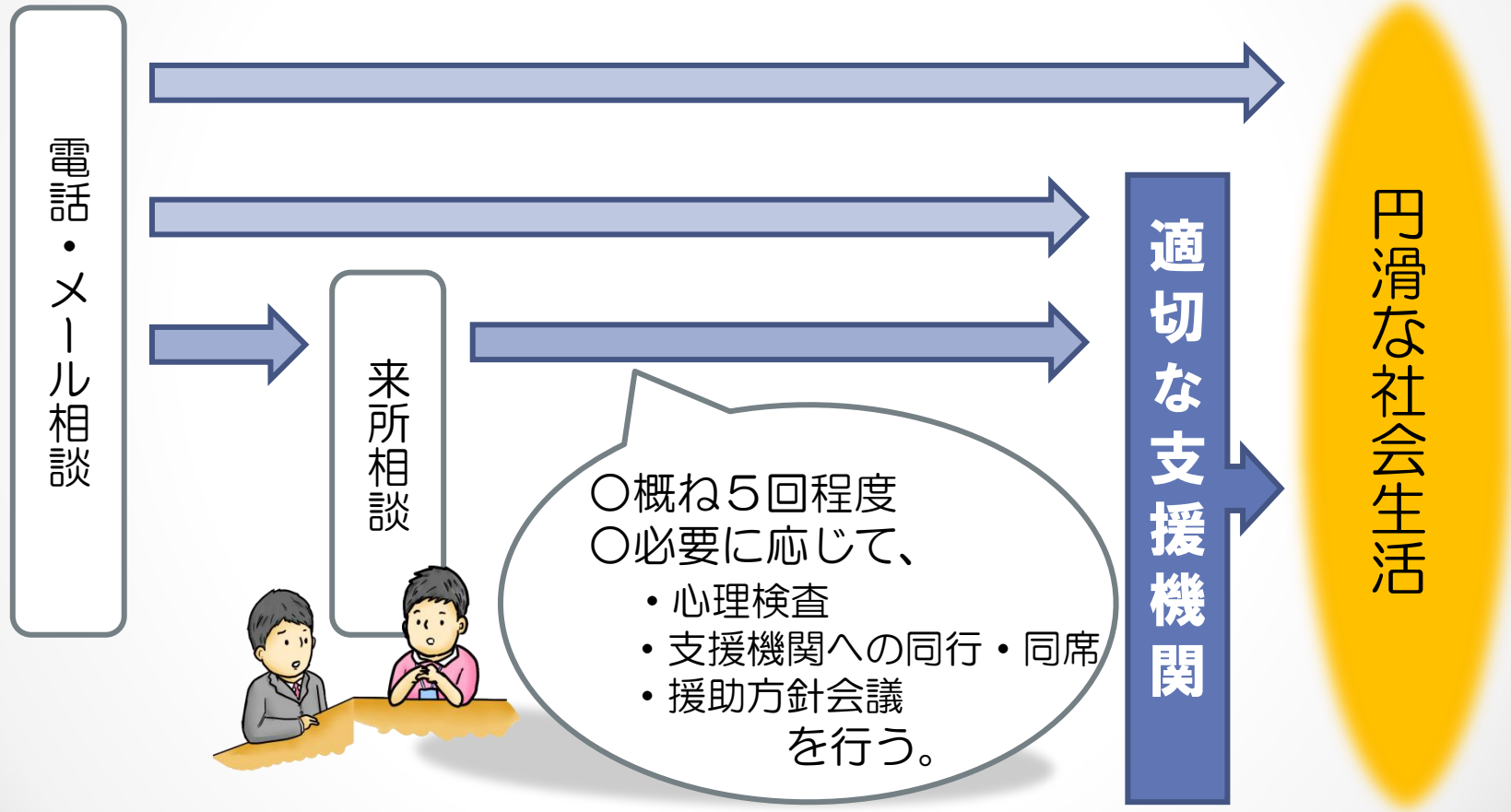
幅広い分野にまたがる若者の問題への一次的な受け皿として相談を受け付けた上で、細やかで確実な見立てを行い、適切な支援機関につなぐことにより、若者の社会的自立を後押しする。

平成29年7月より、電話相談・メール相談に加えて、**来所相談**を開始

ポイント

- ・ 電話・メールで相談内容を聴き、相談者の希望や相談員の判断で予約
- ・ 専門職として、実務経験5年以上の臨床心理士・社会福祉士等を配置
- ・ 非行専門の相談員を配置し、非行少年や非行歴を有する若者も支援
- ・ 関係機関参加による「援助方針会議」を開催し、今後の支援先や支援方法を検討

相談の流れ



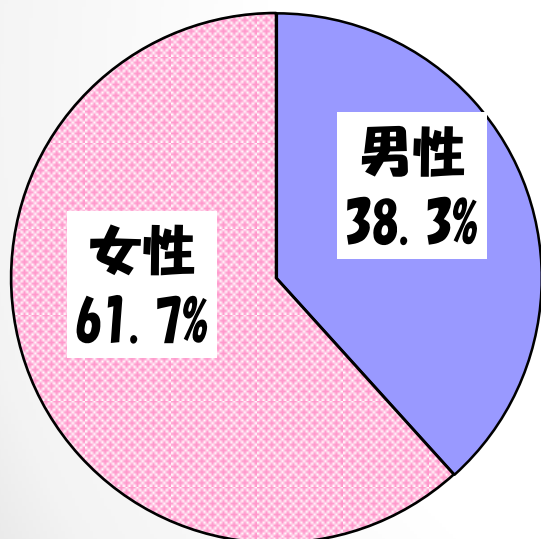
相談者の特徴

若ナビ 

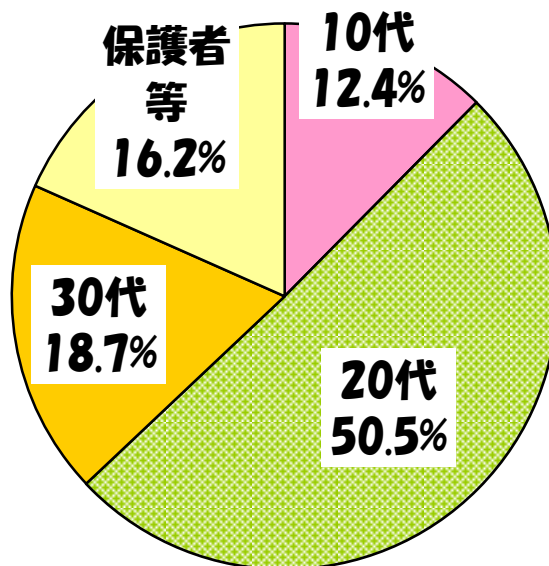
相談者の特徴①

<性別、年齢、就業状況>

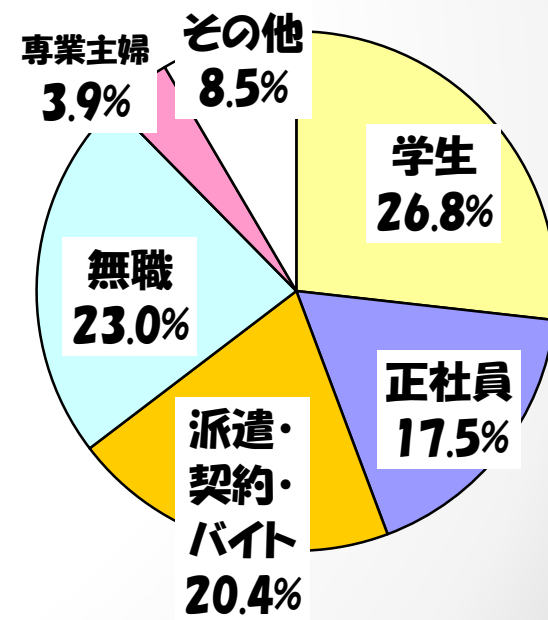
【性別】



【年齢】



【就業状況】



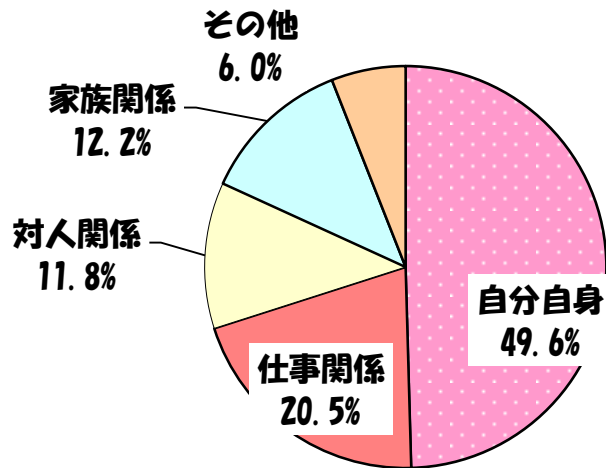
相談者の特徴②

<相談内容、傾向>

若ナビαにアクセスしてくる若者

二分化される

【相談主訴】



①複合的な課題を抱えている若者

・例えば、幼少期からの家族関係、発達障害、精神障害、生活環境など

↓
来所相談へ

○丁寧に話を聴き、適切な支援機関へ

②孤立した若者

・ただ話を聴いてほしい。自分の存在を認めてほしい。

… アドバイスや支援は求めていない。

↓
電話、メール相談

○毎日のようにかけてくる
○匿名で話せる気軽さから利用

相談者の特徴③

<若ナビαにつながったきっかけ>

① 継続的な電話・メール相談から

来所して丁寧に話を聴くと、本当の課題が見えてくる場合も多い。

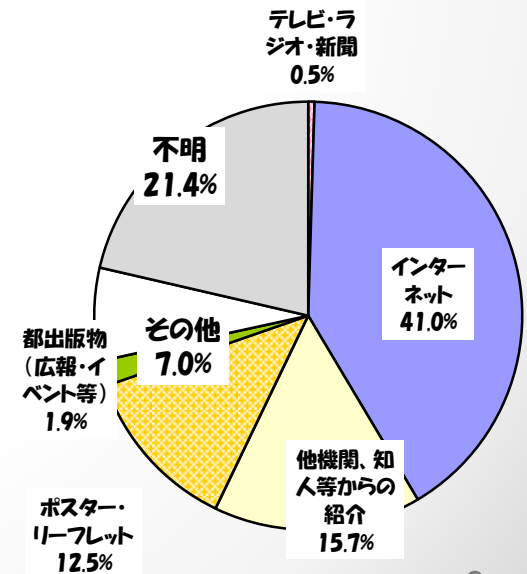
② 親から

親は支援を必要と感じているが、子供は現状に困っていないことが多い。

③ 他の相談・支援機関から

複数の課題を抱えており、一つの機関では支えきれないケース。

【相談経路】



相談事例

若ナビ 

相談から見えてきた課題

【若者への理解と対応】

- 生きづらさを感じてきた若者
- 精神疾患をもつ若者
- 保護観察終了後、やりたいことが分からない若者

【地域における連携支援のポイント】

- 全体のコーディネータ（調整）役
- 医療機関との情報共有、役割分担
- 保護観察終了時の切れ目のない支援